

【徒歩送迎用】カラフルハウス北砂教室
安全管理・支援実務マニュアル

1. 徒歩送迎の基本姿勢

安全の絶対優先： どんなに急いでいても、信号無視や無理な横断は厳禁です。

療育の延長： 歩行は「交通ルールの習得」「体力の向上」「季節の発見」など、大切な療育の時間と捉えます。

地域のみ： スタッフの振る舞いは地域の方に見られています。挨拶を欠かさず、道幅を占有しないよう配慮します。

2. 出発前の準備・確認（チェックリスト）

[] ペアリングの確認： お子さまの特性（多動、手つなぎ拒否、座り込み等）を考慮したスタッフ配置。

[] ルートの再確認： 工事箇所や不審者情報がないか共有。

[] 携行品バッグの保持：

緊急連絡先リスト（保護者・事業所）

事業所用携帯電話

防犯ブザー（すぐに鳴らせる位置に）

救急セット（絆創膏、消毒、非接触体温計）

水分補給用の飲み物

視覚支援カード（「とまれ」「歩く」など）

[] 身支度の確認： 靴紐の緩みはないか、季節に合った服装か、帽子は被っているか。

3. 移動中の安全ルール

歩行位置：

スタッフは必ず「車道側」を歩きます。

お子さまの手を引く際は、手のひらではなく「手首」を軽く保持する（手首持ち）ことで、急な振り解きを防止します。

信号・交差点：

信号待ちでは車道から2歩以上下がり、壁やフェンス側に誘導します。

青信号になっても、右左折車が完全に止まったことを目視で確認してから渡り始めます。

狭い道・段差：

一列走行を徹底し、すれ違う歩行者や自転車に道を譲ります。

段差がある場所では「段差だよ」と事前に声を掛け、転倒を防止します。

4. 特性に応じた支援と対応

飛び出し傾向がある場合： 手つなぎを徹底し、必要に応じてスタッフ2名で挟むように歩きます。

座り込み・パニック時：

周囲の安全を確保し、壁側に誘導します。

無理に引っ張らず、お子さまが落ち着くまで待ちます。

視覚カード（「休む」「あと少し」）を提示し、見通しを立てます。

感覚過敏がある場合： 工事音やサイレンにパニックを起こす可能性があるため、イヤーマフの準備や、音源から遠ざかるルートを選びます。

5. 到着・引き渡しルール

対面報告： 保護者や関係機関担当者へ、道中のお子さまの様子（歩き方、発見したこと、気になる行動）を丁寧に伝えます。

異常の報告： 万が一、転倒して擦り傷を作った場合などは、その場で状況を正直に伝え、事業所でも記録を残します。

6. 緊急時の対応フロー

安全確保： お子さまを安全な場所（店舗内や広い歩道）へ誘導。

連絡： 事業所へ電話。必要に応じて 110 番・119 番通報。

待機： 応援が来るまでその場を動かない（二次被害防止）。